

2021/09/19

大阪インターナショナルチャーチ
詩編 119 篇 1-24 節

ゲストスピーカー：アリスティア・マッケンナ牧師

119:1 幸いなことよ。全き道を行く人々、【主】のみおしえによって歩む人々。 119:2 幸いなことよ。主のさとしを守り、心を尽くして主を尋ね求める人々。 119:3 まことに、彼らは不正を行わず、主の道を歩む。 119:4 あなたは堅く守るべき戒めを仰せつけられた。 119:5 どうか、私の道を堅くしてください。あなたのおきてを守るように。 119:6 そうすれば、私はあなたのすべての仰せを見ても恥じることがないでしょう。 119:7 あなたの義のさばきを学ぶとき、私は直ぐな心であなたに感謝します。 119:8 私は、あなたのおきてを守ります。どうか私を、見捨てないでください。 119:9 どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるのでしょうか。あなたのことばに従ってそれを守ることです。 119:10 私は心を尽くしてあなたを尋ね求めています。どうか私が、あなたの仰せから迷い出ないようにしてください。 119:11 あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。 119:12 【主】よ。あなたは、ほむべき方。あなたのおきてを私に教えてください。 119:13 私は、このくちびるで、あなたの御口の決めたことをことごとく語り告げます。 119:14 私は、あなたのさとしの道を、どんな宝よりも、楽しんでいきます。 119:15 私は、あなたの戒めに思いを潜め、あなたの道に私の目を留めます。 119:16 私は、あなたのおきてを喜びとし、あなたのことばを忘れません。 119:17 あなたのしもべを豊かにあしらい、私を生かし、私があなたのことばを守るようにしてください。 119:18 私の目を開いてください。私が、あなたのみおしえのうちにある奇しいことに目を留めるようにしてください。 119:19 私は地では旅人です。あなたの仰せを私に隠さないでください。 119:20 私のたましいは、いつもあなたのさばきを慕い、砕かれています。 119:21 あなたは、あなたの仰せから迷い出る高ぶる者、のろわるべき者をお叱りになります。 119:22 どうか、私から、そしりとさげすみとを取り去ってください。私はあなたのさとしを守っているからです。 119:23 たとい君主たちが座して、私に敵対して語り合ってもあなたのしもべはあなたのおきてに思いを潜めます。 119:24 まことに、あなたのさとしは私の喜び、私の相談相手です。

はじめに

これから 4 か月続けて、月に一回大阪インターナショナルチャーチでの説教を引き受けることになりました。このような特権を与えていただき感謝しています。

聖霊の導きにより、詩編 119 篇について説教をするよう引き寄せられたのですが、4 か月では全てはできないかもしれません。もしも来年も説教を依頼いただくことがあれば是非続きをすることにしませう。

なぜ、聖書の中でも最も長い詩編について説教する必要があるのでしょうか。今日の OIC の皆さんや私にどのように関連してくるのでしょうか？

この詩編を学ぶ第一の理由は、この詩編が 100%神の御言葉に焦点を当てているからです。

この詩編は、神の子どもの霊的生活の内にまで届くようにできています。

また神の御言葉、聖書が、いかに私たちを聖さのうちに成長させることができるか、そして、従順な信仰の歩みにいつも伴う迫害や圧力にいかに対処できるようにしてくれるかを教えてください。

テモテ第二 3:12 には、キリスト・イエスにあつて敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます、とあります。ですから、迫害にどのように対処するのかを知っていることは、詩編 119 篇の教えの重要な部分です。

詩編 119 篇は長さだけではなく、**ヘブライ語のアルファベット**がすべてふられた小さい段落に分かれている点で他の詩編とは異なっています。

各段落に 8 節あり、合計で 22 段落あります。この詩編は、ヘブライ語のアルファベットの最初の文字、「アレフ」から始まり、最後の文字「タヴ」で終わります。

恐らく、簡単に暗誦できるようにこのようにされたのではないのでしょうか。若きユダヤ人として、アルファベットを学ぶと共に詩編 119 篇を記憶できたとしたら、人生の素晴らしい霊的基礎を得ることができることでしょう。

ほとんどの節が、なんらかの形で神の御言葉について触れています。

この詩編を誰が書いたのかは書いてありませんが、学者によると書き方のスタイルがダビデのスタイルと似ているのだそうです。

聖書研究者の中にはエレミヤによって書かれたに違いないと言う人もいます。それは、著者が王と話したことがあり（46 節）、23 節と 161 節では君主たちからの反発について触れられているからです。また、聖所やいけにえ、祭司の職について触れることがないため、エレミヤの時代と結びつくとも考えられます。

またエレミヤは、選ばれし神の民の歴史でも困難な時期に神の御言葉を告げ知らせるべく努力した涙の預言者でした。けれども、誰がこの詩編を書いたかは重要ではなく、これが今この時の私たちにとっての神の御言葉だということが重要です。（テモテ第二 3：16）

この詩編全体のテーマは、信者の生活における神の御言葉の実践です。

著者は今日の私たちのように聖書全体を読むことができませんでしたが、それでも御言葉が自分の霊的な糧であり（103 節）、大きな宝だと考えていました。（14、72、127、162 節）開かれた心で読めば、聖書自体が敬虔なクリスチャンの人生において多くの働きをしてくれます。

御言葉は私たちをきよく保ち（9 節）、喜びを与え（14,11,162 節）、導き（24, 33-35, 105 節）、私たちの価値観を確立し（11, 37, 72, 103, 127, 148, 162 節）、きちんと祈れるよう助け（58 節）、望みを与え（49 節）、平安を与え（165 節）、自由を与え（45, 133 節）、人生における神の目的を見出し、それが成就するのを助け（73 節）、良い証人になるために強め（41-43 節）、そして私たちが弱く落ち込む時に私たちを回復させ、また自分の足で立てるようにしてくれるのです（25, 37, 40, 88, 107, 148, 154, 156, 159 節）。

神の御言葉を読み、学ぶことはなんとという益をもたらすのでしょうか！

では、詩編 119 篇にあるヘブライ語のアルファベットのうち最初の 3 つから学びましょう。

1. Aleph (アレフ)-非難されるところのない幸いな者となる(1-8 節)

この詩編の 1 節、冒頭の言葉は「幸いである」です。2 節にも繰り返されていますが、その後はこの詩編には出てきません。著者は、これがまず最初の課題だと言いたいのかもかもしれません。

Q. 聖書の神に祝福されたいですか？

英語で「幸いだ」と訳されている言葉がヘブライ語では何を意味しているのかを知る必要があります。ヘブライ語の「Barak」と言う言葉とその派生形は旧約聖書で 415 回登場します。この言葉は神の選ばれた民の思考パターンにおいて、重要な位置を占めていました。

このヘブライ語の言葉には、誰かに権限を与える、もしくは成功、繁栄、満たされた長寿を与えるという意味があります。

端的に言うと、祝福された(幸いな)人とは、富と豊かな人生を与えられるということです。神の選ばれた民にとって、この祝福は神の民に対する契約の条件に従うという条件付きでした。

申命記 11:26-28 節「11:26 見よ。私は、きょう、あなたがたの前に、祝福とのろいを置く。11:27 もし、私が、きょう、あなたがたに命じる、あなたがたの神、【主】の命令に聞き従うなら、祝福を、11:28 もし、あなたがたの神、【主】の命令に聞き従わず、私が、きょう、あなたがたに命じる道から離れ、あなたがたの知らなかったほかの神々に従って行くなら、のろいを与える。」

ですから、祝福の概念は神との関係において従順であることに見出せます。

疑問となるのは、旧約聖書の契約関係の一部ではない私たちが、どのようにして神の祝福にあずかるのかということです。詩編の著者がその答えを与えてくれます。

著者は、神の御前に非難されるところのない者は幸いであると教えています。

神の立法に従順であれば、そして神との関係に心を尽くしていればです。

イエス・キリストだけがこの地上で神との、そして神の立法との関係において **100%**非難されるところのない人生を生きただけだから、これは非常に難題です。

けれども、イエス・キリストを信頼し信仰を置くなら、私たちは「神の御前にきよく責めるところのない者」であると聖書は教えています。

エペソ 1:4 「1:4 すなわち、神は私たちが世界の基の置かれる前から彼にあって選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。」

信仰と信頼をイエスに置くことで関係が生まれます。そしてそれは神の聖霊を通してのみ可能です。

ローマ 5:5 「5:5 この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」

ただ神の聖霊のゆえに、人生において神の戒めが重荷となることなく私たちは従うことができるようになります。

ヨハネ第一 5:3 「神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。」

ですからイエス・キリストを親しく知っていることも今日の私たちが神の祝福を受け取るということなのです。イエス・キリストを通して自分の罪が神に赦されたことを知る時、私たちは聖霊を受け取ることができます。

神の御言葉を読み、私たちが聖霊に明け渡す時、人生を心から神にお捧げするよう示されます。私たちが御言葉、聖書を通して神の御声を聞くなら、私たちは神に従うために生活を変えるよう促されるのです。

詩編 119 篇で著者は、心を尽くして神を求めることについて 6 回触れています(詩編 119 篇 2、10、34、58、69、145 節)。

神に心を全てお捧げする時は、他のものや人は一切神との関係に介入させることはありません。神が私たちの人生の最重要位置を占めるのです。

神が私たちの**喜び、楽しみ**となりますから、他の何によっても、誰によってもその関係を邪魔してほしくないものです。

119 篇 2 節には、私たちが心を尽くして神を尋ね求める時、神によって祝福される（幸いな者である、とあります。神は、御心と目的に沿った形で私たちに祝福するための、神だけの方法をお持ちです。私たちは自分の人生にとって何が最善なのかいつも分かっているわけではありません。

けれども私たちが心を神に明け渡し、神と御言葉を楽しむ時、神は私たちの心の願いをかなえてくださいます。

詩編 37:4 「【主】をおのれの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。」

もちろん、御言葉を読むとマイナス面もあると分かります。

私たちの人生には、神を喜ばせない物事があるのです。もしもそれをしてしまったならば、私たちは神にそれを告白し、赦しを求めなければなりません。そういった、今後起こりうる困難を乗り越えることができるよう、私たちは聖霊の助けを求めることができます。信仰の歩みをすれば、将来も神が助けくださるでしょう。ヤコブが家から逃れた時、彼は霊的な人とは言えませんでした。けれども神は彼を見捨てないと約束してくださいました。ヤコブはその約束を信じ、敬虔な者となりました。(創世記 28 章: 10-22)

2. Beth(ベート)-きよくなるべく時間を割く(9-16 節)

著者は、主のおきてを守ると決めて最初の段落を終えます(8 節)。これは、約束として 145 節にも繰り返されています。

次の段落はよくあるユダヤ式の教え方で始まっています。

著者は、若き聞き手に対してこう問いかけます。

「どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるでしょうか。」という問いかけです。もしくは、「どのようにして若い人は純粋でいられるでしょうか」という訳もあります。

著者の答えは、「神の御言葉に従うこと」です。

けれども、これは言うに易く行うに難しいことです。

10 節で著者は、御言葉に忠実で居続けるために私たちの心をすべて神にお捧げすることに触れ、話を展開していきます。

私たちが神に心をすべてお捧げし、神を深く愛すならば、神の御教えに反したいとは思わないでしょう。神を楽しませることにおいて私たちは楽しみ、神が愛されることを愛し、神が厭われることを厭うのです。

私たちは赦しときよめを必要とする罪深い心を持って生まれました。

そのような心は変えられる必要があります。新しい性質を必要とするのです。

神は私たちに、神の形を取った新しい性質を備えてくださいます。聖霊と呼ばれるものです。聖霊は神ご自身の一部です。

神は私たちに新しい心を与えてくださいますが、私たちの古い心もまだそこにあります。それはまるで 2 匹の犬が内に住んでいるかのようです。新しい犬にエサを与えれば成長し、古い犬にエサをやらなければ飢え死にします。

常に気を配らなければ、詩編の著者が言うように、私たちの心は神から迷い出てしまいます。神のみが可能にしてくださる人生を生きることができるよう、聖霊を通して神の助けを毎日求めなければなりません。

使徒パウロが学んだように、私たちも学ばなければなりません。内に住まわれる聖霊のみが、神の子どもが日々の生活で神の義を実行することを可能にしてくれます。

ローマ 8:1-11 「8:1 こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。8:2 なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。8:3 肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰されたのです。8:4 それは、肉に従って歩まず、御霊に従って歩む私たちの中に、律法の要求が全うされるためなのです。8:5 肉に従う者は肉的なことをもっぱら考えますが、御霊に従う者は御霊に属することをひたすら考えます。8:6 肉の思いは死であり、御霊による思いは、いのちと平安です。

8:7 というのは、肉の思いは神に対して反抗するものだからです。それは神の律法に服従しません。いや、服従できないのです。8:8 肉にある者は神を喜ばせることができません。

8:9 けれども、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉の中ではなく、御霊の中にいるのです。キリストの御霊を持たない人は、キリストのものではありません。8:10 もしキリストがあなたがたのうちに住んでおられるなら、からだは罪のゆえ

に死んでいても、霊が、義のゆえに生きています。8:11 もしイエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリスト・イエスを死者の中からよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられる御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも生かしてください。」

11 節で著者は私たちの心の内に御言葉をたくわえなければならぬと教えています。それはどういう意味でしょうか？

それは、神の御言葉を暗誦し、心の中に記録することです。できるのであれば、御言葉を覚えることは、私たちができうる最高のことです。もちろん若い時の方が御言葉を暗誦するのは簡単です。けれども年を経ても不可能ではありません。

英語でも日本語でも、自分の母国語でも、聖書から聖句を暗誦してみませんか？

きっと、今はもちろん将来助けとなることでしょう。神の御言葉が心にたくわえられたのは、あなただけがわかることです。正しい時に、神がそれを引き出され、神の栄光のために用いられます。私が OIC に居た時は、60 の聖句を覚える弟子訓練を実施し、多くの方がその訓練を修了し、ご褒美としてスタディバイブルを受け取りました。私が居た頃に挑戦したけれども、諦めてしまって終えることができなかった人もいますかもしれない。もしそうなら、また挑戦して、是非完了してみてください。もしも訓練を完了されたら、私が喜んで皆さんの言語のスタディバイブルを提供しましょう。

ここまで色々お話ししましたが、神の御言葉を適用することから祝福が来るのです。

ヤコブ 1:22-25 「1:22 また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません。1:23 みことばを聞いても行わない人がいるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で見る人のようです。1:24 自分をながめてから立ち去ると、すぐにそれがどのようなであったかを忘れてしまいます。1:25 ところが、完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならないで、事を実行する人になります。こういう人は、その行いによって祝福されます。」

神の御言葉を適用するにあたって、御言葉をその状況で口にすべき時もあります。詩編の 13 節で著者は「119:13 私は、このくちびるで、あなたの御口の決めたことをことごとく語り告げます。」と言っています。時に、その状況の中で神の御言葉を口にし、宣言すべき時があるのです。未信者の方は御言葉を耳にする機会が必要です。約 12 年前に、未信者のご家族のために葬儀を執り行ったことがありました。葬儀をするのは容易ではありませんでした。亡くなった方を火葬に引き渡す直前に、伝道者の書 3 章 1-8 節をお読みしましたが、最後の節も付け加えて、「お別れの時間です」と言いました。その後、女性が声をかけてくれ、「素晴らしい言葉ですね、どこからの引用ですか？」と聞かれました。ですから私は聖書を示し、聖書から他にももっとたくさん素晴らしい言葉が読めますよ、とお伝えしました。ですから、御言葉を口に出すことは、今日であっても神に栄光と誉れをお捧げするものです。適切な場が与えられたら、恐れずに神のために御言葉を口にしてみましよう！

3. Gimel (ギメル)-私たちには神の御言葉が必要である(17-24 節)

詩編の著者は、神の御言葉は「霊的な目」によって理解できると教えています。

聖書は靈的な本で、もしも私たちがたましいに糧を与えたいと思うなら、この本をいつも読んでいなければなりません。

神との日々の時間なくして、クリスチャンとして生き残ることはできません。神の御言葉、聖書を読むのはもちろんです。

詩編 119 篇のこの段落では、なぜ私たちが神の御言葉を必要とするのか 3 つの理由が挙げられています。

まず、私たちが御言葉を必要とするのは、私たちが神のしもべであるからです (17 節)

詩編 119 篇の中で、少なくとも 13 回、私たちが神のしもべであるということに触れられています (17, 23, 38, 49, 65, 76, 84, 122, 124, 125, 135, 140, 176 節)

神ご自身が、神が私たちにお求めになる働きへと私たちを導き、案内してくださいます。神の御言葉を通してその導きを得るのです。

ですから、聖書の御言葉を読まず、神に従っていない人は、神にお仕えしていません。シンプルなことです。

神のために何かしようと決めることは容易です。けれどもあなたの働きは神のための働きであつても神から来る働きではありません。

神から来る働きとは、神があなたにして欲しいことです。

神があなたを整え、その働きに必要なことを備えてくださいます。

数年前に、デビッド・オルフォード師が OIC で説教をしてくださったことがあります。

彼のお父さんは、英国出身でアメリカへ移住した有名な教師で、ステファン・オルフォード師です。

私は 1991 年にステファン・オルフォード師の説教を聞いたことがあります。コリント第一 15 章 58 節からの説教です。

「15:58 ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあつてむだでないことを知っているのですから。」

その説教の中でオルフォード師は「主から来る働き」と「主のための働き」の違いを説明されました。その中で彼が言ったことは、主から来る働きがしたいと思うなら、そのためには完全に心を明け渡し、神に生き、神が私たちに何をして欲しいと思われているのか問わなければならないということでした。

神は御言葉、聖書を通して私たちとコミュニケーションを取られます。

神は聖書を通して、私たちに何をして欲しいのか導きを与えてくださるのです。

ですから聖書を熱心に学ぶ者とならなければ、神のしもべにはなれません。

そこで 2 つ目の理由ですが、この詩編は私たちが単なる神のしもべではなく、御言葉を学ぶ者にならなければならないと教えています。(18 節)

18 節は、目を開き、(神の) みおしえのうちにある奇しいことに目を留めるようにと教えています。著者が神のおきてと言うとき、聖書の最初の五書を指しています。創世記から申命記までの書です。開かれた心でこの書を読めば、あなたもこのページの各所に秘められた素晴らしいことを見ることができます。

新約聖書にあるパウロの祈りの 1 つで、エペソ人への手紙に記録されているものがこのことと関連しています。

エペソ 1:15-18 「1:15 こういうわけで、私は主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛とを聞いて、1:16 あなたがたのために絶えず感謝をささげ、あなたがたのことを覚えて祈っています。1:17 どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。

1:18 また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、」

パウロがこう祈ったのは、多くのクリスチャンがしていたことは自分が良いと思うことであって、神の御言葉がするよう命じていたこととは異なっていると気付いたからです。私たちがしても良いと思うことは、多くの場合神の御言葉が教えることとは大きく違います。ですから私たちは御言葉を学ぶにあたり、霊的な目と、心と思いが神の御言葉の教えることと一致するよう祈らなければなりません。

神の御言葉と真剣に向き合う者となる時、私たちは真剣に神のしもべにならなければなりません。私たちの目や心がこの世やこの世の物事に集中しすぎているならば、私たちは世のようになってしまいます。

聖書は、世を愛することは神の敵となることであると教えています。(ヤコブ 4:4)

けれども、私たちの目が神と御言葉に焦点を当てているのなら、私たちは考え方において神のようになります。神の聖霊の助けにより、私たちのライフスタイルや態度はイエスのそれに似たものになるのです。

最後に、19 節から 24 節では、著者は私たちがこの世では寄留者であることを思い出させています。天への旅路を旅するにあたり、神の助けを必要とするのはそれゆえです。

きちんと正しい道を旅しているか、確かめて行く必要があるのです。

もしもアメリカ出身の方が日本へ来て働き、住んでおられれば、日本で運転することとはどういうことか気づくのに時間はかからないでしょう。

最初に直面する問題は、日本では間違った道（反対側）を運転するということです。

ですが実は間違った道なのではありません。完全に運転の仕方が異なるだけなのです。

このシステムは英国人のせいと言ってもいいのでしょうか。英国は第二次世界大戦後、新しく自動車工業と道路システムを構築するために日本に大きく協力しました。

聖書は、人生において間違った道を旅してしまう人が多いと言っています。

マタイ 7:13-14 「7:13 狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入って行く者が多いのです。7:14 いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。」

人生で一番重要なことは、自分が正しい道を歩んでいることを確かにすることです。

運転試験はありませんから感謝ですね。でも、入国要件があります。

その入国要件とは、イエスに信仰と信頼を置くということ です。

そうするためには、まずはイエスが必要だということを認めなければなりません。

心の中の罪が聖書の神から自分を引き離してしまったことに気づかなければならないのです。イエスだけがあなたの罪を赦し、永遠のいのちへと続く道へつなぐことができるお方です。イエスはあなたへの神からのプレゼントです。多くの人が神のプレゼントを拒否し、破滅と、永遠にゲヘナで過ごすことになる広い道を旅し続けます。

だから、クリスチャンはこの世では寄留者なのです。

クリスチャンは異なる道を旅しているからです。

その道は多くの難題に満ちていますが、天へつながる道です。

ペテロ第一 1:3-7 「1:3 私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。

1:4 また、朽ちることも汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これはあなたがたのために、天にたくわえられているのです。1:5 あなたが

たは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりのときに現されるように用意されている救いをいただくのです。1:6 そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。いまは、しばらくの間、さまざまの試練の中で、悲しまなければならぬのですが、1:7 あなたがたの信仰の試練は、火で精錬されつつなお朽ちて行く金よりも尊く、イエス・キリストの現れるときに称賛と光栄と栄誉になることがわかります。」

荒野の旅で雲と火の柱がイスラエルを導いたように（民数記 9:15-23）、聖書も私たちの人生を導きます。

神の御言葉に心を注ぐ時間を取り、心から神を求めるのであれば、神は人生の道を示してくださいます。

結論と応用

Q. では、今日の生活に直接適用すべき重要ポイントは何でしょうか？

1. 非難されるところのない祝福された人生を送りたいなら、創造主と直接出会わなければなりません。それは唯一、神の子イエス・キリストを通してのみ可能です。イエスは、あなたと聖書の神の間の架け橋のような方です。

イエスは、神がどのようなお方なのかを示すために天から地に来られ、私たちの罪の罰を負って十字架上で死なれました。

イエス・キリストは私たちの身代わりで、私たちの立場で死なれました。私たちの罪は神の罰にふさわしいものであるのに、神の恵みにより、神はそれ以外の方法を備えてくださったのです。

そうすることで永遠の裁きを免れ、イエスを通して永遠のいのちという神からの賜物をいただけるのです。イエス・キリストに信頼し、彼に自分の罪を告白するならば、私たちの狭くも永遠のいのちにつながる道の旅路が始まります。

今あなたは、永遠のいのちへと続く狭い道か、永遠の裁きを経験する「ゲヘナ」と呼ばれる場所に続く広い道を旅しているかのどちらかです。

皆さんが、既にイエス・キリストを信じると言う正しい選択をされていることを願います。天へと続く狭い道を旅しているのでしょうか？

狭き道を旅していないのであれば、今日、イエスのもとへ来ることで変わることができます。今日、イエスを信頼しませんか？

2. 永遠のいのちへの道に一度入れば、人生であなたを導き、平安と喜びを与える助けが必要となります。

毎日、御言葉から、聖書からそれを得ることができます。神と、神の御言葉と時間を過ごすならば、神の聖霊があなたのたましいを生き返らせてくれます。

いつも何かとやる事が多くあるものですから、神と御言葉に時間を割くために時間を作らなくてはなりません。私たちの思いに影響するべきは、神の御言葉であって、私たちが住む文化や社会などではないことを確かにしましょう。

3. 聖書を読むにあたって、神に心を明け渡さなければなりません。それは、私たちが神のしもべであるからです。しもべは主人が言うことを行うものです。

自分たちの働きを神のためにするのはなく、神から出た働きを神のためにしているかどうかを確かにしなければなりません。神は私たちにして欲しいと思われることに対して私たちに備えてくださいます。皆さんに神の祝福があり、神の御言葉、聖書に従うことができますように。